

## 第36回新技術・新工法発表会に関するアンケート調査結果

### I. 特に興味のある発表課題(回答者:61人)

発表課題	人数	(%)	興味のある内容
①非破壊試験による鋼製防護柵の根入れ長測定	23	42	・非破壊試験・検査による効率化。 ・維持管理にも利用可能。 ・試験・管理の簡素化。
②騒音・振動遠隔監視システム	11	20	・リアルタイムで確認・対応ができる。 ・今後の現場施工に活かせると感じた。 ・特に市街地作業が多く、今後の課題となる。
③GNSS位置情報を活用した新技術	20	36	・GNSS位置情報を活用することで様々な利用方法がある。 ・マルチコプターとGNSS。 ・高速での施工が可能となっている。
④ 20t級ハイブリッドショベルの紹介	0	0	
⑤超低空頭場所打ち杭工法	1	2	・コンパクトなところ。
⑥孔壁防護併用場所打ち杭工法	0	0	

### II. 会場の環境について

会場の環境	人数	(%)	意見
良い	20	34	
普通	26	45	
悪い	12	21	・狭い。 ・机がない。
計	58	100	

### Ⅲ. 技術発表全体について

発表課題	内容の理解について			発表時間について		
	よく理解できた	ほぼ理解できた	出来なかった	長い	丁度良い	短い
①非破壊試験による鋼製防護柵の根入れ長測定	(36%) 22	(62%) 38	(2%) 1	(4%) 2	(94%) 48	(2%) 1
②騒音・振動遠隔監視システム	(30%) 18	(66%) 40	(5%) 3	(20%) 10	(78%) 40	(2%) 1
③GNSS位置情報を活用した新技術	(27%) 16	(67%) 40	(7%) 4	(10%) 5	(86%) 43	(4%) 2
計	(31%) 56	(65%) 118	(4%) 8	(11%) 17	(86%) 131	(3%) 4

### Ⅳ. 映像発表について

発表課題	関心が持てた部分
④20t級ハイブリッドショベルの紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境負荷低減、OPの安全確保。</li> <li>・旋回運動を電気を蓄えて無駄なく利用、安全面にも配慮している。</li> <li>・コストを削減できること。</li> <li>・マシンコントロールの精度の向上。</li> <li>・エンジン、安全性。</li> </ul>
⑤超低空頭場所打ち杭工法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭あい箇所での施工ができること。</li> <li>・自走する方法、架設柵が減少すること。</li> <li>・経済性が向上したところ。</li> <li>・広い施工ヤードを必要としないこと。大型のクレーンが必要でないこと。</li> </ul>
⑥孔壁防護併用場所打ち杭工法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掘削、水位を監視し品質向上。掘削からシールド組み立てと無駄がない。</li> <li>・孔壁防護材の同時打設。</li> <li>・薬注がなく、コスト削減につながる。</li> <li>・狭い箇所での施工ができる。</li> </ul>

### Ⅴ. 今後の業務に活かせるか。

活かせる	30	54%
活かさない	4	7%
どちらともいえない	22	39%
計	56	100%

## VI. 今後の発表会のあり方

### Q-1 発表会の内容

安全・安心	19	22%	
コスト縮減	15	17%	
環境	11	13%	
リサイクル補修・補強	18	21%	
IT(情報技術)	19	22%	
その他	4	5%	・機械設備関係
計(回答者)	86	100%	

### Q-2 今後の発表会のあり方

- 1) 数値的な説明が必要、今までと比較
- 2) 映像や実物を主体とした発表
- 3) 建設から維持管理、メンテナンス分野も多くなっているため、その分野についても行ってほしい。
- 4) 新しい点検技術についての発表が聞きたい
- 5) 各分野ごとの発表会
- 6) 映像を使用されわかりやすい。百聞は一見に如かず
- 7) 実際の試験を実施する
- 8) 今回の内容は大変興味深かった。
- 9) 技術提案用の説明をしたほうがよい。
- 10) 発表会でなければ得られない情報等があればと思う。
- 11) 会場を案内所に記載してほしい
- 12) 時間は適切でした

## VII. その他 協会活動についての意見・要望

- 1) 引き続き新技術の発信をお願いします
- 2) 今後も多くの研修会・講習会を開催していただくようお願いします。
- 3) 他分野の技術であっても新技術に関する発表は勉強になります。

Ⅷ. 勤務先の業種

製造業	5	9%
建設業	38	66%
商事会社	1	2%
サービス業	2	4%
リース・レンタル業	3	5%
団体・コンサルタント	8	14%
官公庁	0	0%
その他	1	1%
計	58	100%